

村山市を思いっきり楽しんだよ!

川遊び、じゅんさい、そば打ち・初めての体験!



厚岸を活動の拠点として、現在の北方領土等の探検を行った最上徳内。その出生地が山形県村山市であったことから、村山市と厚岸町は平成3年に友好都市を提携し、以後、産業や文化等での交流が行われるようになりました。

その中の一つの取り組みとして、双方の子どもたちが、お互いの地域の風土や文化に触れ、野外活動交流を通じて友好都市の絆を深めるとともに、自分で問題を解決し、新しい状況を切り開く『生きる力』を育むため、平成12年から『友好都市子ども交流事業』が行われていました。この事業は、村山市と厚岸町を相互に訪問するもので、今年で16回目を数えました。この間、村山市からは1771人が厚岸町を訪れ、厚岸町からは179人が村山市を訪問しています。

今年、7月28日から7月31日の3泊4日の日程で、厚岸町子どもたち15人が村山市を訪問し、さまざまな体験を行ったので、その内容を紹介します。

7月28日

出発の日、厚岸の気温は17度。朝7時に役場へ集合し、バスで鉦路駅へ。列車、飛行機、バスを乗り継ぎ、村山市に着いたのは厚岸を出てから11時間後のことです。

本来なら、もう少し早く着く予定でしたが、仙台空港に到着した際に村山市の担当者から、事故による道路の渋滞のため、午後からの川遊びでは、再び村山市の子どもたちと合流し、タライの舟に乗って遊んだり、川へ何回も飛び込む子も。全員が全身ずぶ濡れになりながらも、伸び伸びと楽しく遊んでいました。

夕食は村山市の郷土料理の芋煮や山菜おこわ、川遊びの際に捕まえたヤマメの塩焼きなどを食べ、みんなで花火をして2日目終了しました。

7月30日

この日も朝から気温が高く晴天の中、じゅんさいの収穫体験をしました。採り方がよく分からず、最初は戸惑っていた子どもたち。だんだんと慣れ始め、黙々と手を沼に入れ、楽しみながら収穫。初めて見るじゅんさいを恐る恐る口にしたり子どもたちですが、「おい、いい」と言っておかわりをして食べる子も。

その後、そば打ち体験のため河島農村文化伝承館へ移動。昼食はもちろん、そば打ち体験で自分達で打ったそばです。村山市の子どもたちと協力し合って、そばを打ち、切り、大人の班よりも上手に出来た班が多くありました。

今日で村山市の子どもたちとお別れと

め、迎えが遅れるとの連絡が…。空港で1時間20分ほど待機となりましたが、子どもたちは空港内を自由に見学し、笹かまぼこを試食したりと楽しく時間を過ごしました。

このアクシデントにより、当初予定していた村山市役所への表敬訪問は翌日に変更になったため、歓迎夕食会が行われるクアハウス基点へ。クアハウス基点では、村山市の子どもたちが横断幕を掲げながら出迎えてくれました。

歓迎夕食会では、太田小学校6年の藤澤ひなさんがあいさつし、初めて村山市の子どもたちと交流しました。

7月29日

早朝から暑く、晴天の中、スイカの収穫体験をしました。美味しいスイカの見分け方を教わり、スイカをコンコン叩きながら収穫。収穫したスイカをすぐに切って食べさせてもらいましたが、あまりの甘さに、みんなびっくり。

その後、徳内神社を参拝しバラ公園を見学。暑さもあり、バラ公園でのパラアイス試食が人気でした。

一旦、村山市の子どもたちと別れ、村山市役所へ。村山市役所では、職員の皆さんが歓迎してくれ、子どもたちを代表して、太田小学校6年の小川奈々愛さんがあいさつをしました。

表敬訪問の後は、最上徳内記念館へ。んだニャー祭りの救世猫と泣き猫百覧会

いうことで、お別れ会が行われ、1人1言ずつ全員が感想を発表。最後に子どもたちを代表して真龍小学校5年の車塚花瑠香さんがあいさつをしました。

仲良くなった村山市の子どもたちと別れた後、真下慶治美術館に行き、好きな作品の前で写真を撮ったりして楽しみ、夕方にはクアハウス基点のプールに入り、最後の1日を楽しみました。

7月31日

厚岸町へ向けての出発の朝。村山市で過ごす時間が惜しいのか、全員が時間よりも早めに起床し行動。女の子たちは早朝から朝風呂を楽しみ、全員が朝食もしっかり食べました。

クアハウス基点を出る際には、見送りに来ていた村山市教育委員会の皆さんが見えなくなるまで、子どもたちはバスの中から手を振り、名残惜しそうにしました。

厚岸町から遠く離れ、違う環境の中でさまざまな体験を通して、参加した子どもたちは、一回りも二回りも成長したのではないのでしょうか。

この4日間の交流で得た思い出が、子どもたちの大きな宝となり、交流の絆が一層強いものとなれば、大変嬉しいことだと思います。

